

初期消火の3原則

1 早く知らせる

- 「火事だ！」と大声で近隣の方々に知らせ、救助を求める。声が出なければ、鍋などをたたいて異変を知らせる。
- 小さな火災でも速やかに消防署(119番)に通報する。

2 早く消火する

- 火の小さい初期段階ならば、まだ私たちの手で消火可能。近隣の方と協力して消火する。
- 毛布などで火の勢を抑え、水をかけるようにする。
- 備えてある消火器のほか風呂の残り湯など、利用できるものは何でも利用する。
- 街角消火器を使用する。(詳細は27ページ)

3 早く逃げる

- 天井に火が燃え移ったらもう危険。身の安全のためすばやく避難する。
- 煙に注意しましょう。

初期消火の方法は？



●**油鍋**
慌てて水をかけるのは厳禁。消火器で消すのが原則。ない場合には、ぬらした大きめのタオルなどを手前からかけ、空気を遮断して消します。



●**カーテン、ふすま、障子**
天井に燃え移ることを防ぐことが大切です。引きちぎったり、蹴倒したりして火を天井から遠ざけてから消火します。



●**衣類**
すぐ脱げるものは脱いで足で踏み消します。脱げない場合は地面や床を転げ回って消します。



●**石油ストーブ**
消火器がない場合、ぬらした毛布などで覆い、その上から一気に水をかけ、消火します。



●**電気製品**
水をかけると感電するおそれがあります。プラグを抜き、ブレーカーを落としてから消火します。

避難するときの注意点は？

●**1** 服装や持ち物にこだわらず、できるだけすばやく避難する。



●**2** 避難は要支援者が最優先。健康者は、その方々の避難を手助けしましょう。



●**3** 煙の中では姿勢を低くし、床をはうように避難します。ぬれたタオルで口をふさいで煙を避けましょう。



●**4** マンションなどでは、エレベーターを使わず、避難階段を使って逃げます。



●一旦逃げ出したら、再び中には戻らないようにしましょう。



●**6** 逃げ遅れた人がいる場合は、消防署員にすぐ知らせましょう。



※地下街や映画館・劇場など多くの人が集まる場所で火災にあったときには、パニックにならず落ち着いて行動しましょう。係員の誘導や指示に従って避難してください。



風水害対策

近年、台風や集中豪雨のため、洪水やけ崩れなどの被害が全国各地で発生しています。首都圏地域では、市街化が進むにつれ、雨水を貯えていた田畑や森林が大幅に減少しました。あわせて、道路の舗装や排水路整備が進み、雨水が一気に河川に流れ込む危険があります。また、ヒートアイランド現象が原因とされる集中豪雨が、近年頻繁に起こっています。

風水害は事前の準備しだいで、被害を最小限に抑えることができます。一人ひとりが正しい知識を持ち、普段の備えと災害時に冷静に行動できる力を身につけておくことが大切です。

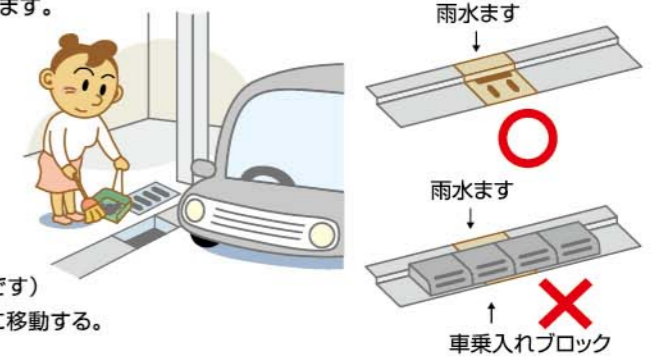
風水害の備え

台風や集中豪雨はある程度予測できる災害です。情報を入手し、しっかりした準備をしておきましょう。



●「雨水ます」の清掃

ますの取水口が落ち葉やごみで詰まると、道路冠水や浸水の原因になります。雨水ますの周りがごみで汚れていたら、清掃にご協力をお願いします。



- 避難場所の位置や避難経路を確認しておく。
- 懐中電灯や携帯ラジオ及び予備の電池などを準備する。
- 生活用水を貯めおきます。(飲料水は一人一日3Lが目安)
- 非常持ち出し品を準備する。(地震対策としても普段からの準備が大切です)
- 浸水の危険がある場合には、大切な家財道具は2階や高い安全な場所に移動する。